イオン上峰店跡地に建つ農業生産・田園景観をテーマとした道の駅

1．背　景

筆者が居住する佐賀県三養基郡上峰町では、現在、世帯数が増加している。それに伴ってなのか近年、町内で分譲宅地と書かれたのぼりや看板を目にする機会が増えた（写真 1）。新たに分譲宅地として整備されている土地の多くは田や畑など農地として使用されていた土地である。

ところで現在日本で全国的に問題になっている少子高齢化だがその影響は上峰町も例外ではなく、農業に従事する人口の減少、また、後継者も減少している。総面積 12.79 ㎢ の狭小な自治体である、上峰町の農業生産組織の多くは小農（狭い田畑を所有し、自家の労働力のみで営む小規模農業）であり、本業とは別に農業を営む、副業的農家が急増している 1)。こうした日本の少子高齢化、働き方の多様化、また、先進国と呼ばれる現在の日本において、第一次産業である農業が衰退してしまうことはしかたがないことかもしれない（表 1）。

また上峰町は今年の 2 月に大きな損失をしている。上峰町の中心市街地と呼べる場所で 24 年の間、開業し続け上峰町の発展に大きく貢献したであろうイオン上峰店（写真 2，開業時の名称は上峰サティ）の撤退である。イオン上峰店開業当初の上峰町は、町制を施行して上峰村から改名されたばかりで、これといった集客施設もなかった。その上峰町にイオン上峰店は、大きな雇用、税収、そして人の流れをもたらした。サティ開業後は、周辺の沿道（県道 22 号線・国道 34 号線）に地場や全国チェーンを問わず、ホームセンターやファミリーレストランなど多くのロードサイド型の店舗が出店した [2]。そのイオン上峰店が撤退したことを受け、上峰町はイオン九州と協議し、イオン上峰店跡地を条件付きで無償取得している。上峰町はこの跡地を PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）事業で再開発する計画を進めており、イオン九州は、その再開発後の施設への出店を条件に合意している [3]。

2．問題意識

前述したとおり、佐賀県三養基郡上峰町では、分譲宅地が増加し、農地が減少傾向にある。筆者は、上峰町の固有資源は都心では見ることができないこの田園景観だと考えている（写真 3）。しかし今後の日本において、農業従事者の減少に歯止めをかけることや、この田園景観を残すことは難しいだろうと考えている。

上峰町には「米多浮立」（めたぶりゅう）という、370 年前から伝わる民俗芸能がある（写真 4, 5, 6）。この民俗芸能は佐賀県重要無形民俗文化財に登録されており、2 年に 1 回、五穀豊穣に感謝して奉納される神社の秋祭りである。このような雨乞いや五穀豊穣に感謝を表して行われる民俗芸能を神楽（かぐら）や浮立（ふりゅう）と呼ぶ。各地に存在しているが、かつては農業中心であった地域経済の変化などにより、いくつかの曲と舞は忘れられ、現在では復元できなくなったものもある [4]。

筆者は通常、佐賀県の実家から九州産業大学まで JR 電車で通学しているが、博多駅に近づくにつれ、見慣れた田園景観は密集する住宅街、そして乱立するビル群の景色に一変する。そこで筆者は疑問に思ったことがあった。筆者は、小学生・中学生の頃、授業の一環で農業を体験する機会があったが、都市部の学生はそのような機会があったのだろうか。またもし上峰町から農地がなくなってしまうような時代が来たら、その時代の子どもたちは農業を知らずに大人になってしまうのではないだろうか。そして、イオン上峰店跡地を PFI 事業で再開発しようと計画している上峰町だが、大規模店舗経営のイオンが放棄した場所で民間資本の商業施設を再び展開したところで長くは続かないのではないかと考えている。

写真 1　分譲宅地

上峰町では、田畑があった場所に、分譲宅地ができ、農地が減少しつつある。

写真 2　イオン上峰店の撤退

2019 年 2 月に上峰町の中心市街地にあったイオンが撤退した。

写真 3　田園景観

上峰町の田園景観。都市部では見ることができない、田舎ならではの景観である。

表 1　農業就業人口および基幹的農業従事者数（単位：万人，歳）

	平成22年	27年	28年	29年	30年	31年（概数値）
農業就業人口	260.6	209.7	192.2	181.6	175.3	168.1
うち女性	130.0	100.9	90.0	84.9	80.8	76.4
うち65歳以上	160.5	133.1	125.4	120.7	120.0	118.0
平均年齢	65.8	66.4	66.8	66.7	66.8	…
基幹的農業従事者	205.1	175.4	158.6	150.7	145.1	140.4
うち女性	90.3	74.9	65.6	61.9	58.6	56.2
うち65歳以上	125.3	113.2	103.1	100.1	98.7	97.9
平均年齢	66.1	67.0	66.8	66.6	66.6	…

（出典：農林水産省統計部：農林業センサス，農業構造動態調査）

農業に従事する人口は、全国的に年々減少している。

写真 4, 5, 6　米多浮立（めたぶりゅう）

上峰町の民族芸能である。天衝舞浮立の一種で、2 年に一度、五穀豊穣に感謝して行われる神社の秋祭りである。天衝舞役の 3 人は頭上に高さ 3m の天衝を戴き、口を赤布でおおう。天衝は竜と日、月、宝珠が描かれている。腰のゴザは大太鼓を打ち誤ったときに切腹する用意であったと伝えられている。

３．必要性や意義

発展していくとともに失われつつある農地を残し、田舎ならではの景観を後世に残す。農地を残すことで、農業に付随する歴史的文化財の保存につながる。また、この農地で農業を体験できるように整備することで、地域住民と町内外の学生との交流をはかり、また、学生は命を育み、それを頂くという行為を学ぶことができる。そしてイオン上峰店跡地を使用することにより、上峰町の中心市街地の活性化、地域住民が関わることができる施設や交流拠点を創造することで、撤退することなく上峰町発展の一助となる可能性があると考えられる。

４．設計の目的

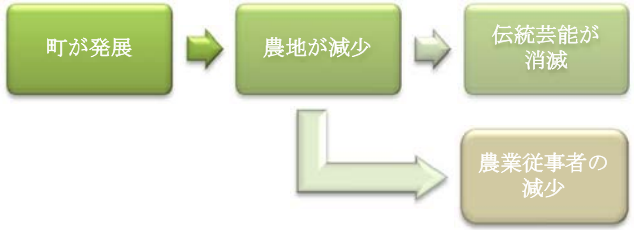
上峰町は、確かにイオン上峰店の進出により発展してきたと思われる。現在、町が進めているイオン跡地をPFI事業で再開発する事業も、成功すれば上峰町のさらなる発展につながるだろう。発展することにより、町が豊かになることも喜ばしいことではあるはずだ。しかし発展するということは今以上に農地の減少に拍車がかかるだろう。自分が生まれ育った故郷の景観が変わっていくことは寂しい。そして何より全国的にみても田舎である佐賀県の中で、2番目に小さい自治体である上峰町から農地が減少しているのである。このまま農地がなくなり続けると、それに付随する、伝統的な民俗芸能まで消滅していくことが予想される。また農地が減るということは、農業に従事する者が減るということである。このままこの状態が続くと、いずれ農地がなくなり、農業を経験したことがない、経験することができない時代になってしまうかもしれない。筆者はこれらの問題の打開策案になりうる提案を行いたいと考えている。

５．敷地概要

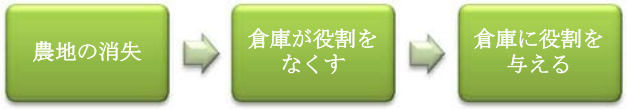
対象敷地は佐賀県三養基郡大字坊所にあるイオン上峰店跡地である（図1）。佐賀市方面に向かう国道34号線と久留米市方面に向かう県道22号の分岐点付近に位置しており、両市から20分圏内の立地である。自動車の通行量は1日3万車台に上る。敷地面積は約39,000㎡である。イオン上峰店の東側には、独立住宅が整然と並ぶ中の尾団地がある。この団地は1970年代に整備された。汚水の集合処理により水洗トイレを完備するなど、当時としては佐賀県でも先進的な団地であったが、郡部という立地のためか発売当初は不人気だった。しかしイオン上峰店の進出により状況は一転した。中の尾団地はその出店前後から人気が沸騰し、すぐに完売した。既存の商店街を守る目的で、大型商業施設の出店を規制する役割を果たしていた大規模小売商業施設法（大店法）が2000年に廃止され、それまで郊外型の大型商業施設が少なかった佐賀市や久留米市などへの大型商業施設の進出が活発化した。イオン上峰店は、運営するマイカル九州が2001年に経営破綻し、その後、イオン九州への合併や店名変更を経て、前述のように2019年2月閉店した。

６．設計対象の概要

田植えが行われるのは、概ね5月から6月頃で6月下旬頃になると、太陽の光が水面に反射し、美しい水田の景観を見ることができる。7月中旬頃になると苗もある程度成長し田は一面新緑の景観となる。9月中旬頃から10月にかけて稲は成熟期を迎え、田は緑から黄金色に変わっていき、秋の訪れを教えてくれる。この景観は、筆者が現在まで上峰町で生活してきて、毎年変わることなく見ることができた景観である（写真7）。しかし現在の上峰町の田園景観が失われつつあるということに危機感を覚え、この景観を後世に残していきたいと考えた想いから、この研究は発したものである。そしてその景観に溶け込める建築とは何かと考えた時、それは、現存する農業用倉庫や作業場であるだろう。これらの建築も、田が失われていくとともに、役割を終え、消滅していく景観の一部である。そこで、現存する農業用倉庫や作業場を対象敷地に移設しコンージョン（用途変更）することで、これらの建築に新たな役割を与



町の発展に伴い、農地が減少していく。農地の減少が続くと、農業に付随した伝統的な民族芸能が消滅していくことが予想される。また、農地が減少していくということは農業に従事する者が減るということである。



農地が消失すると、農業用で使われていた倉庫も役割をなくし、消滅していく景観の一部である。農地とともにこの景観を保存するために倉庫をコンバージョンする。

図１　対象敷地・周辺地域図

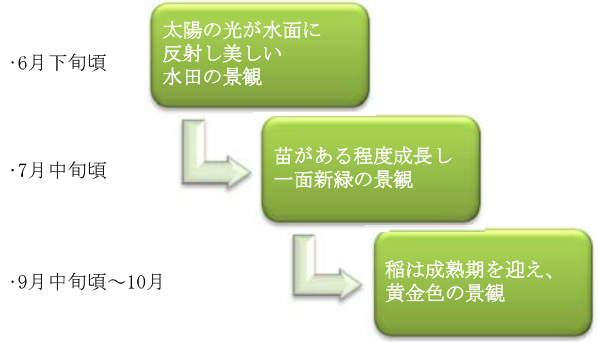


写真７　農業生産と田園景観

え、存続させる。そして米多浮立は筆者も幼少期に参加したことがあるが、その時期は祭りの意味を理解せずに参加していた。「五穀豊穣に感謝する」という祭りの意味をより分かりやすく、表現するために、建築から田に突き出した舞台を造り、稲穂の上で芸能を披露することで広く周知させることにもつながるだろう。また学生が農業体験できるような施設にしたいと考えているが、収穫した作物を加工から販売までを一貫して体験できるようにして6次産業化につなげたい（図2）。

これらの農地や民俗芸能の管理、保存するには町、地域住民の協力が必要不可欠であり、そして農地で収穫した作物を直売することができる施設として道の駅を提案する。コンバージョン予定の建築の概要は次のとおりである。倉庫1は現在、農具や農業機械庫として使用されている。壁材は波板スレートであり、所在地は上峰町大字前牟田である。規模は間口約10,800mm、奥行き約19,000mm、最高高さ約7,500mmである（写真8,9）。倉庫2の壁材は波形スレートである。所在地は上峰町大字前牟田である。規模は間口約12,000mm、奥行き約32,000mm、最高高さ約6,650mmである（写真10,11）。倉庫3の名称は久栄倉庫であり、貸倉庫として使用されている。所在地は上峰町大字坊所である。規模は間口約32,000mm、奥行き約41,000mm、最高高さ約5,300mmである（写真12,13）。倉庫4の名称は昭和51年度第2次構造改善事業第3期利用組合農機具格納庫であり、壁材は波型スレートである。所在地は上峰町大字前牟田である（写真14,15）。倉庫5の外壁はトタンで錆が激しく歴史を感じられる。後付けされたと思われる大きなシャッターがあり、かつては農業用機械などの倉庫として使われていたと思われる。所在地は川副町大字早津江である。規模は間口約12,600mm、奥行約17,500mm、最高高さ約6,300mmである（写真16,17）。なおこれらの規模は今後精査する予定である。また倉庫3と倉庫4以外の名称は調査中である。最後に山口家住宅の所在地は川副町大字大詫間であり、規模は間口10,971mm、奥行15,456mm、最高高さは6,650mmである。じょうご造りといわれる江戸後期の農家で、佐賀県と福岡県の一部地域のみで見られる（写真18,19）。

7．関連事例

香川県高松市の北浜alleyは、古い倉庫をコンバージョンした複合商業施設である。高松港を経由する貨物の一時保管場所として昭和初期に建設されたが、本州四国連絡橋の開通により、その役割を終えた古い倉庫群が「倉庫の現姿を残す」「商業施設として再生する」「文化的貢献を果たす」を基本理念として、一級建築士・井上雅子と地権者である農業協同組合・JA香川県により開発された施設である[5]。役割を終えた建築をコンバージョンし役割を与えることで、新たな施設に生まれ変わらせる。そうすることで現在の景観を後世に継続させることができる。

8．今後の研究の進め方

今後の研究としては、古い倉庫をコンバージョンしている事例の調査を深めていき、それらの事例を参考に自分の研究に落とし込んでいく。またコンバージョン予定の建築の分析を進め、それぞれの建築の平面計画、立面計画を進めていく。それをもとに図面の作成や模型の製作を行っていく。さらにこの研究の成果を、何らかの方法で地域に提案できないかと考えている。

参考文献

1) 上峰町：まち・ひと・しごと創生総合戦略，http://www.town.kamimine.lg.jp/var/rev0/0002/5779/20151126211446.pdf
2) かつては地域一番店も早かった陥落「上峰イオン」撤退の背景，https://news.livedoor.com/article/detail/16063107/
3) 佐賀新聞：イオン上峰跡地再生PFIで2年後開業なるか，https://www.saga-s.co.jp/articles/-/357905，2019年4月
4) 浮立，https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%AE%E7%AB%8B
5) 北浜alley，https://ja.wikipedia.org/wiki/北浜alley

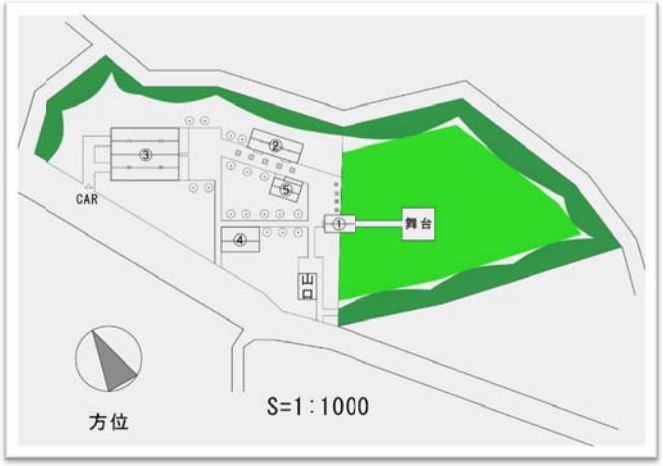


図2　配置図

敷地東側に、田を配置する。建築から田に突き出した舞台を造り、そこで、民俗芸能などを披露できるようにする。敷地の外周部には築山を設けることで、変化していく外部の景観の目隠しとなる。また、築山はのぼることができ、そこから舞台を眺める客席とすることができる。

写真8,9　倉庫1（配置図①）

間　　口　約12,000mm
奥 行 き　約19,000mm
最高高さ　約 7,500mm

写真10,11　倉庫2（配置図②）

間　　口　約12,000mm
奥 行 き　約32,000mm
最高高さ　約 6,650mm

写真12,13　倉庫3（配置図③）

間　　口　約32,000mm
奥 行 き　約41,000mm
最高高さ　約 5,300mm

写真14,15　倉庫4（配置図④）

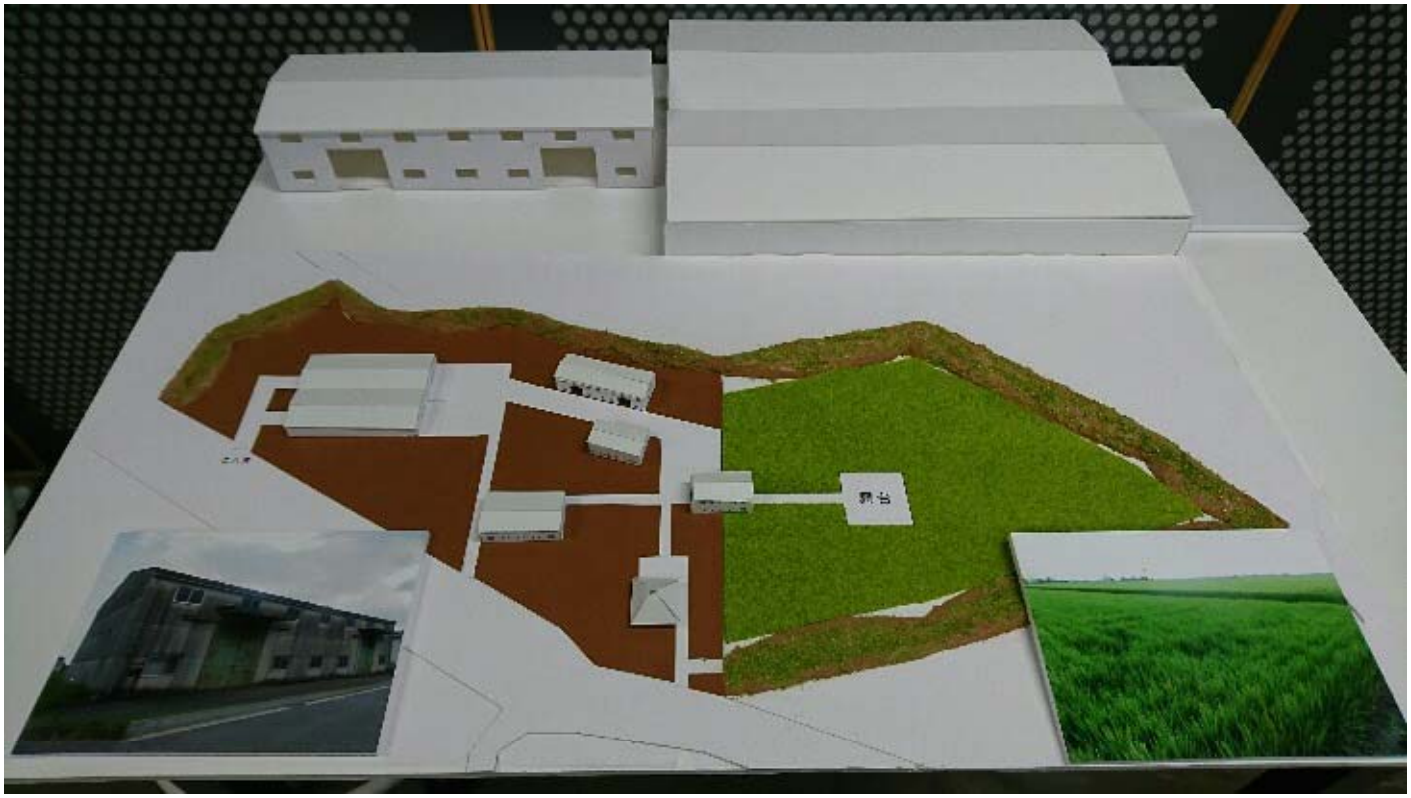
間　　口　約23,200mm
奥 行 き　約15,000mm
最高高さ　約 6,000mm

写真16,17　倉庫5（配置図⑤）

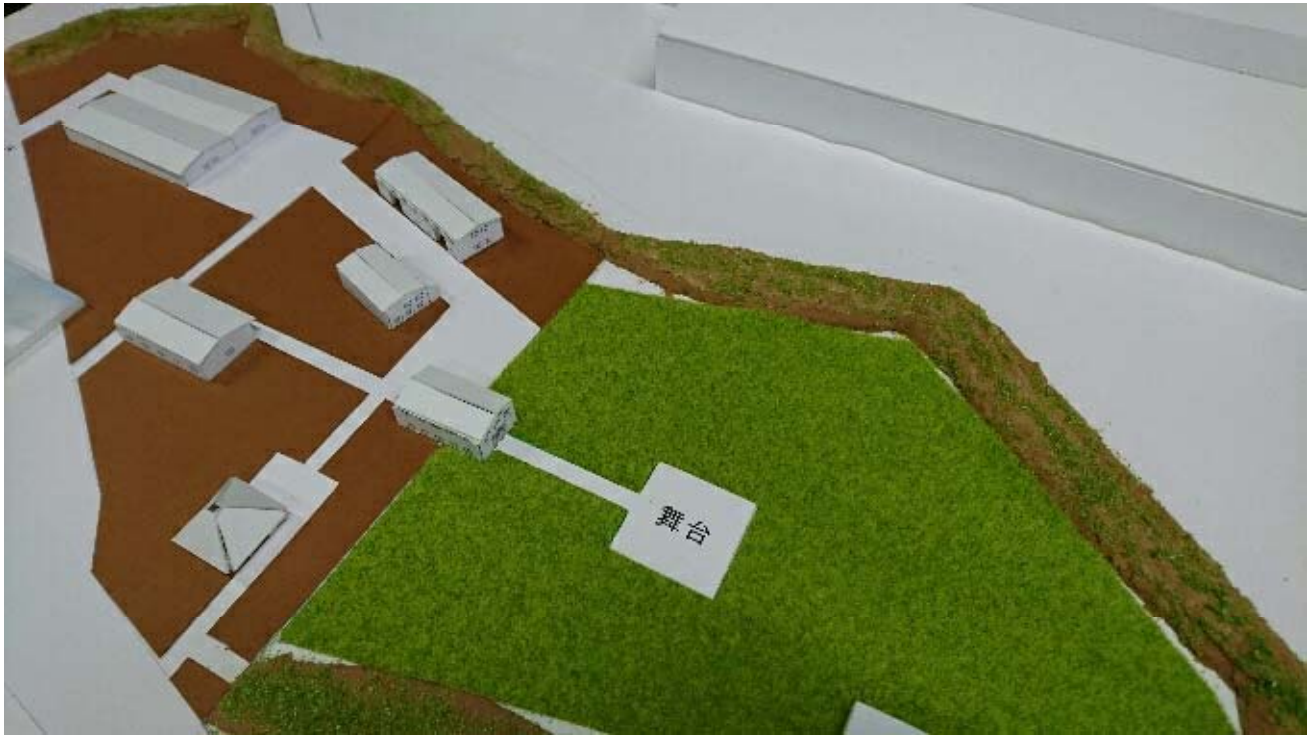
間　　口　約12,600mm
奥 行 き　約17,500mm
最高高さ　約6,300mm

写真18,19　山口家住宅

間　　口　10,971mm
奥 行 き　15,456mm
最高高さ　6,650mm



模型写真（1）



模型写真（2）